

※この報告書の〈受講者の声〉までが、なごや環境大学のウェブサイト上に掲載されます。

事業実績報告書

様式2
(2024年度)

講座番号	B-36	講座名	木曽川がもたらす生物多様性の恵みに感謝し、水源の森で学び遊ぶ
記載日	2025/3/10	団体名・企業名	NPO法人「みたけ・500万人の木曽川水トラスト」

〈講座全体の概要〉(300字程度)

木曽川水トラストの森は岐阜県御嵩町にある。巨大産廃処分場計画に関する住民投票で処分場を拒否した御嵩町民に感謝して創設されて25年を経た。木曽川の恵みで繁栄する名古屋など下流域都市圏市民に、上流に感謝するまなざしを持ってもらうことを企図して本講座を行った。山中での座学に始まり、東海地方に特徴的な落葉性広葉樹林の観察、炭焼き、竹の除伐や簡単な竹細工体験、焼きあがった炭を使ってさんまを焼いて食べる、ヒノキなどの針葉樹の間伐や枝打ちの見学、古民家での餅つきなどを通じて、木曽川上流域中山間地帯の里山の自然と暮らしを学んでもらうことが出来た。子供に里山体験、炭焼き、薪割、餅つきをさせたかったという子連れのファミリーの参加があった。初めての試みとして11月に、地元農家で獣害に悩む方に来ていただいて、イノシシくり罠の実演をしていただき、中山間地帯の厳しい現実を知っていただくことも出来た。



※写真1の説明

1月11日は古民家をお借りして餅つきをした。米を蒸すための薪も森から持参。今年は子供用の杵を用意した。



※写真2の説明

12月14日は、先月焼いた炭を取り出し、サンマを焼いて食べた。もちろん焼き芋も。サンマを載せる竹皿工作も。

〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)

台風や大雪もなく天候条件としては順調であった。コロナ禍もほぼ終わったにもかかわらず、参加者数が伸び悩んだ。申し込みをしたにもかかわらず全く参加しなかった方もいた。さらに、1回だけの参加者も多かった。昨年一昨年と同じ反省をしたが、「通し参加が望ましい」という一文を加えるかどうか悩ましい。ガイドブック頼みの集客には限界があり、なんらかの情宣の強化が必要であることを痛感した。ボランティア情報サイト「ボラミミ」を見て参加した人が数人いたことは、今後に向けての可能性を示した。第1回の座学で、当NPO法人の成り立ちの背景となった産業廃棄物処分場計画をめぐる御嵩町の歴史、木曽川上下流間の不公平、下流域都市圏の責任などについて知ってもらうという企画は参加者には好評だった。

〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3~5点、計350字程度)

1) 知らないことが多く、大変勉強になった。子供と一緒に参加して大変良い経験をした。 2) 実際の山でお話を聞き、人が山と共存する大切さを実感しました。里山にも興味を持つようになりました。 3) ていねいに森林の説明をしていただき、メンバーの方々とも有意義な交流が出来ました。 4) リニアの工事の影響などの報道がありますが、当事者でないとわからないこと、忘れてはいけないことを聞いて良かった。 5) 焚火が楽しかった!